

忠犬ハチ公 ～ 生誕100年！～

1923(大正12)年～1935(昭和10)年

ハチ公は秋田県大館市で誕生した秋田犬です。1924(大正13)年に上野博士に引き取られました。上野博士の急死後も約10年にわたって渋谷駅で帰りを待ち続け、その姿が忠犬として称えられ、「忠犬ハチ公像」が渋谷駅に設置されました。現在も渋谷のシンボルとして愛されています。



『東大ハチ公物語』

一ノ瀬 正樹／編 正木 春彦／編
東京大学出版会 2015

この本は様々な視点からハチについて論じています。特に印象に残るのは、ハチの渋谷駅通いに様々な説があったことです。この本では、上野博士を迎えに行ったのではなく、駅前の焼き鳥屋から焼き鳥をもらいたかったという説を、当時の報道や犬の習性を根拠に否定しています。ハチと上野博士についてより深く知ることができ、学問の様々な分野にも触れられる一冊です。



『全国の犬像をめぐる』

青柳 健二／著 青弓社 2017

渋谷の忠犬ハチ公像をはじめ、全国各地の忠犬・愛犬の像約60体を、建てられたエピソードや犬像の写真とともに紹介しています。犬像を建てた背景に共通しているのは、犬と人の結びつきがとても強く、お互いを思いやる心が現在まで受け継がれていることです。ハチ公像だけでなく、街中にある犬像の歴史を身近に感じられる一冊です。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。

渋谷読書人 2023年12月・2024年1月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2023年12月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



私たちの街 「@シブヤ」 から生まれる物語



『シブヤで目覚めて』

アンナ・ツィマノフ／著 阿部 賢一／訳 須藤 輝彦／訳
河出書房新社 2021

ブラハの大学で日本文学を学ぶヤナは、謎の日本人作家の研究に夢になっていた。そのとき渋谷では“分裂”した17歳のヤナが幽霊となって街に閉じ込められていた。鍵を握る謎の日本人作家の秘密とは…。ブラハと渋谷を舞台としたこの小説は、著者のデビュー作であり、チェコの数々の文学賞を受賞しています。チェコの人には渋谷の街はどのように見えているのでしょうか。



『revisions リヴィジョンズ 1』

S・F・S／原作 木村 航／著
早川書房(ハヤカワ文庫) 2018

高校2年生の大介たちは、突然300年先の未来へ渋谷の街ごと跳ばされ、リヴィジョンズと呼ばれる未来人と出会う。果たして、大介たちは元の時代へ戻ることができるのか…。渋谷が舞台のSF作品は非常に少なく、希少な一冊です。2017年当時の渋谷区役所仮庁舎などが描かれています。2023年の渋谷と比べてみてはいかがでしょうか。



『同潤会代官山アパートメント』

三上 延／著 新潮社 2019

茅ヶ崎出身の主人公は関東大震災で妹を亡くし、その後、妹の婚約者と結婚して、「同潤会代官山アパートメント」で暮らしはじめます。昭和初期から平成にかけて、代官山や渋谷の街の様子、百貨店や映画館、現代のおしゃれな店などが描かれていて、渋谷の発展と歴史も感じられる作品です。



『トツ!』

麻生 幾／著 幻冬舎 2020

原宿駅周辺で銃乱射事件が発生。警視庁特殊部隊SAT制圧班(通称トツ)が出動し、犯人を制圧した。しかし、班長の南條は、ある被害者が遺した言葉が頭から離れず…。実在する日本警察の特殊部隊SATを主人公にしたサスペンス小説です。冒頭で原宿駅周辺や明治通り、代々木公園原宿門などが描かれています。



『ゴースト』

中島 京子／著 朝日新聞出版 2017

鬱蒼とした原宿の館に出没する女の子、20世紀を生き抜いたミシン、おじいちゃんの繰り返す謎の言葉…。人にそっと寄り添う形で存在する幽霊たちの、どこか切ない7つの物語を集めた連作集です。忙しい日々を懸命に生きる私たちに、過去からの声を感じ取る隙間を与えてくれる一冊です。



『二十一時の渋谷で』

古内 一絵／著 シマカワ マサシ／装画
西村 弘美／装丁 東京創元社 2021

老舗映画会社の銀都活劇が大手IT企業に買収されることが決まり、DVD宣伝部を率いる砂原江見は、改めて働く意味を探しはじめます。人は何のために、誰のために働くのでしょうか。自分を見つめ直すきっかけになる一冊です。また、映画業界の栄枯盛衰がリアルに描かれているので、映画・サブカルチャーが好きな方にもおすすめです。



『恋文横丁八祥亭』

立川 談四樓／著 小学館(小学館文庫) 2022

粋な大女将しのと料理上手な孫の典子で切り盛りしている、渋谷恋文横丁跡近くに佇む居酒屋「八祥亭」。そんな店に今日も飛び込む「難」事件の数々。謎の多い常連の落語家が事件解決に動き出し…。著者が噺家ということもあり、ミステリーの中にも笑いあり、涙ありの物語になっています。



『吸血鬼飼育法』

都筑 道夫／著 日下 三蔵／編
筑摩書房(ちくま文庫) 2020

渋谷宮益坂に事務所を構える“一匹狼”片岡直次郎は、警察に頼めないトラブルの収集屋。昭和の高度経済成長期を背景に、予測不能な事件の数々が繰り上げられます。当時の渋谷の雰囲気を感じ取りながら、トラブルを鮮やかに解決していく様子を楽しめます。

「@シブヤ」とは？

こもれび大和田図書館にて「渋谷」が舞台の小説を常設展示しているコーナーです。

気になる新着コーナー



『ガチャガチャの経済学』

小野 尾 勝彦／著 プレジデント社 2023

近年、市場規模が610億円に拡大し、注目を浴びている「ガチャガチャ(カプセルトイ)」ビジネスのしくみなどを、長年この業界に携わっている著者が解説します。新たな日本文化のひとつとして広がっている「ガチャガチャ」について、この一冊から学んでみるのはいかがでしょうか。



『昭和50年代東京日記』

泉 麻人／著 平凡社 2023

アメカジ、リーバイス501、ポパイ、荒井由実、パルコなど…。昭和50年代、日本がとびきり熱かった“あのころ”のカルチャーから、時代の変革を照らすエッセイ。今から48年前、この時代の雑誌・音楽・テレビなどの熱狂ぶりを振り返り、経験した方はもちろんのこと、知らない世代の方も現在のカルチャーと照らし合わせながら楽しめる一冊になっています。



『新書100冊』

高橋 昌一郎／著 光文社(光文社新書) 2023

本当に必要な知識を見失わないためには、何を読めばよいのか。数ある新書の中から、著者が100冊を厳選し、要点を解説しています。ニュースの背景からあの学問の最先端まで、分かりやすくコンパクトにまとめられています。情報が溢れる現代社会を生き抜いていくための足場づくりを、この本からはじめてみてください。